



花博記念協会助成事業 成果発表会

大阪・南御堂で、平成19年10月20日(土)に「花博記念協会助成事業 成果発表会」が開催いたしました。平成16年度から平成18年度までに助成を受けた団体のうち、6団体が「自然と人間との共生」を身近に実践する好例を発表するとともに、質疑応答などを行い、会場内の相互交流を深めました。



会場入口



発表



会場の風景



花博記念協会助成事業 審査会
近藤委員長の挨拶



熱のこもった質疑応答が行われた



花博記念協会助成事業 審査会 長村委員の講評

はじめに

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、1990年の「花の万博」の基本理念を継承・発展し、潤いある豊かな社会の創造に寄与することを目的として設立され、コスモス国際賞の授与をはじめ、花と緑に関する様々な普及啓発・継承発展事業を実施しています。

その一環として、花と緑に関する広汎な分野の事業に対して助成を行う花博記念協会助成事業を実施しており、平成16年度から公募を開始し、平成19年度までに延べ63件の事業に助成を行いました。

社会や生活における花と緑の重要性が高まる中で、花の万博の基本理念である「自然と人間との共生」を身近に実践する市民活動の普及や発展・相互交流の促進の一助となるよう、平成16年度から平成18年度までの3ヵ年度に助成を行った団体のうち6団体が事業の内容や成果について発表する成果発表会を開催し、その3ヵ年度に助成を行った団体の事業成果と併せて、報告書としてとりまとめました。

この報告書の発行により、助成事業がより広く認識され、活用されることで、花と緑あふれる、潤いある豊かなまちづくりの一助になればと思います。

この報告書を発行するにあたり、ご協力いただいた関係各位にお礼を申し上げます。

平成20年 2月

財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

審査会委員長挨拶

花博記念協会助成事業 審査会委員長 近藤 公夫

本日は、花博記念協会助成事業の成果発表会に多数のご参加をいただき、ありがとうございます。

この花博の事業につきまして、私はほぼ20年前に最初の基本構想を作るといふときの委員でございまして、その理念に基づいて博覧会が開かれ、その後花博記念協会が設立され、いろいろな形で事業を展開してきました。助成事業は、平成16年度から公募により実施され、このような発表会の開催は初めての試みということで、選ばれた団体の成果報告を我々は楽しみにしておりますし、またこれを機会にしまして、いろいろな活動をされてこられました方々がお互いに交流を深められる、それがトータルに日本の花と緑の振興に役立つという方向に進んでいく一つの助けになればよろしいのではないかと期待しております。

皆さま方にはぜひこの機会を生かしていただき、将来に向かい、花と緑がこの日本において、あるいは世界においていかにあるべきかということ、少しでも深めていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事業名	発表1 「園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成」				
団体名	園芸療法研究会西日本			発表者	福本 幹雄
実施年度	平成17年度	事業区分	活動・行催事	所在地	大阪府

私どもは、「園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成」に助成を頂いております。私どもが実践で蓄積してきたものを本にするということで、資料整理を進め、執筆者21名を決定して執筆を依頼したのですが、期限までに原稿を書かせることがいかに大変かを実感した次第です。その後、複数回の編集会議を持ち、編集と校正を経て、印刷校了で事業完了となりました。

私どもが今回、申請することになった理由の一つには、2003年5月に大阪市の環境農林水産部と連携して作成することになっていた「農産園芸福祉ボランティアハンドブック」が実現しなかったということがありました。私どもがボランティアハンドブックの作成にこだわるのは、長年の会員向け勉強会や市民向け園芸講座の成果を基に、農産園芸福祉ボランティア入門や施設等へ園芸導入のきっかけとなる情報をコンパクトにまとめた資料作りの必要性を感じていたからです。

また、もう一つの理由として、国際花と緑の博覧会の基本理念である『自然と人間との共生』という理念の継承発展と普及啓発につながる研究開発や諸活動等を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とする」ということや、あるいは「生命の象徴としての『花と緑』に関連する広汎な分野において、科学技術または文化等の発展、または交流に寄与するもの」という助成の対象分野が、私どもの団体の目的が非常にフィットしたからです。

「園芸福祉」という言葉には、いろいろ議論があります。特に私どもの研究会は「園芸療法」と銘打っていますので、なぜ園芸福祉だと言う人もいますが、医師であり私どもの会長でもある公文先生は、そんなに難しいことを言わなくてもどちらでもよいというお考えのようです。園芸活動には、ストレス解消や健康づくり、達成の喜び、生活の質（QOL）の向上、人間としての成長を促すなどの効用があります。園芸福祉は、この園芸の効果を活用し、園芸作業をうまくプログラムに取り入れて施設や地域を結び、皆がより幸福に生きることを目指すものであると言えるのではないのでしょうか。また、これ以外に、新しい介護保険制度にうたわれた「介護予防」に非常に役立つと思われれます。

私どもの総会では毎年、記念講演をやらせてもらっています。2001年は山根寛氏の「街の中の小さな畑で」「園芸療法ボランティア実践活動と評価」、2002年は高柳和江氏の「自然と語る 癒しを求めて」、2003年は澤田みどり氏の「園芸療法と出合って20年」、2004年は吉長成恭氏の「脳内リゾート開発」、2005年はグロッセ世津子氏の「園芸療法のこころ」、2006年は松尾英輔氏の「園芸療法はなぜ療法として 活用しうるか」、2007年は野田正彰氏の「樹や草花のように生きよう～杜甫の 愛した植物～」という講演を行いました。

ほかにも、園芸療法研究会西日本では、会員向け勉強会、一般向けセミナー（年4～5回）、研究実践発表会（年次総会時、本年は第9回目を迎えた）、ボランティア養成講座、ニューズレター（年4回発行）、会員相互の交流の場である遊山の会、あるいは文献購読会ということで、

外国の文献を購読して翻訳をするという活動などを行っているところです。

私どもの理念は「私たちは植物の生長と対話し、再生に癒されながら、会員相互のコミュニケーションを深め、園芸、医療・福祉、市民運動の輪を結び、園芸療法および園芸福祉の研究と普及を図る」ということです。この理念に基づいてハンドブックの作成にも当たっているわけですが、その効果としては園芸福祉の導入と普及、園芸福祉の実践が可能、ボランティアの育成が可能、園芸作業と介護予防、人と自然との共生、人と人との触れ合い、生活の質（QOL）の向上等が挙げられます。

ハンドブックの内容は「園芸福祉とは」「園芸ボランティアの役割」「園芸福祉の楽しみ」「施設と用具の考え方」「障害の理解」「園芸作業の場所」「植物の選択について」「ボランティア活動のマナー」「実践活動の実例集」等で、実はこのハンドブックを作ったところ売れに売れて、平成18年2月末に発行して、今年8月までに1500部印刷したうち1311部が売れてしまいました。予想はしていたのですが、個人会員関係に非常に売れたということで、大学・短大・専門学校のテキストとしては100冊ぐらいです。

今後の課題としては、まず「園芸福祉ボランティア入門ハンドブック」配布効果の評価をどうするかということがあります。また、在庫減少による増刷あるいは改訂版の検討が次に来ます。さらに、アドバンスコース用のテキストの検討も行わなければいけないと考えています。また、ハンドブック配布のための大変な経費増がありましたので、出版社にお願いすることも含め、その救済方法も検討しなければなりません。そして現在、私どもは10周年を迎えて記念誌を刊行する予定にしています。ここに申込書も用意してございますので、よろしくお願います。

『園芸福祉ボランティア入門
ハンドブック』の作成

2007年10月20日

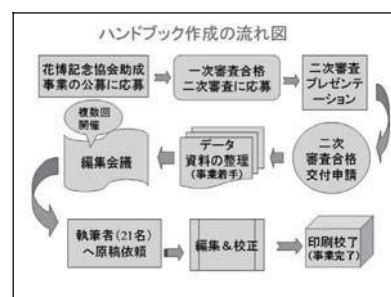
園芸療法研究会西日本
福本幹雄
伊藤壽三枝

HTW

花博記念協会助成事業の申請提出書類

- (1) 事業実施計画書
- (2) 助成金交付申請書
- (3) 申請事業計画に関する参考資料(勉強会計画書、農産園芸福祉ボランティア養成講座日程表)
- (4) 2年以上の活動実績を示す報告書ならびに事業収支報告書
- (5) その他参考資料
① 団体事業概要
② 発表の論文コピー
③ 新聞・雑誌などの掲載された新聞・雑誌など

以上を揃えて一次審査を受ける。



申請までのあゆみ

HTW

*2003年5月に『農産園芸福祉ボランティアハンドブック』が企画される(大阪府環境農林水産部と園芸療法研究会西日本との共同企画)。

目的

*「長年の会員向け勉強会や市民向け講座の成果を基に農産園芸福祉ボランティア入門や施設等へ園芸導入のきっかけとなる情報をコンパクトにまとめた」資料作りが念願であった。

財団法人 国際花と緑の博覧会の基本理念

目的 : 「自然と人間との共生」の継承発展と普及啓発につながる研究開発や諸活動を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とするものである。

対象分野 : 生命の象徴としての「花と緑」に関連する広汎な分野において、科学技術又は文化等の発展又は交流に寄与するもの。

編集会議の風景

園芸療法研究会の編集メンバー

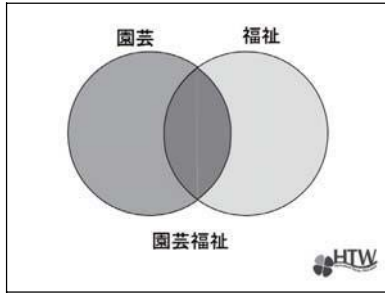
HTW

園芸福祉とは

園芸活動には、ストレス解消や健康づくり、達成の喜び、生活の質(QOL)の向上、人間的な成長をうながすなどの効用があります。園芸福祉は、この園芸の効用を活用し園芸作業を上手くプログラムに取り入れて施設や地域を結び、皆がより幸福に生きることを目指すものです。



いざ！ 実践するには？




園芸療法研究会西日本のあらしⅠ

総会での講演者と演題

- 2001年 山根寛氏 「街の中の小さな畑で」「園芸療法ボランティア実践活動と評価」
- 2002年 高柳和江氏 「自然と語る 癒しを求めて」
- 2003年 澤田みどり氏 「園芸療法と出会って20年」
- 2004年 吉長成恭氏 「脳内リゾート開発」
- 2005年 グロッセ 世津子氏 「園芸療法のころ」
- 2006年 松尾英輔氏 「園芸はなぜ療法として活用するか」
- 2007年 野田正彰氏 「樹や草花のように生きよう」

園芸療法研究会西日本のあらしⅡ



勉強会 一般向けセミナー 実践発表会

記念講演会 ボランティア養成講座 ニュースレター 登山の会

年間事業活動の概要

事業の内容の紹介

- *勉強会：園芸療法研究会の会員向けの勉強会
- *一般向けセミナー：一般市民向けの4～5回/年セミナー
- *実践発表会：年次総会時に実践発表会を行う(本年は第9回目を数えた)
- *記念講演会：グロッセ世津子(2005年)松尾英輔(2006年)、野田正彰(2007年)が講師であった。
- *ニュースレター：国内外の園芸療法に関する文庫、資料等を集め講演会、講座開催、ニュースレター(年4回発行)で情報提供を行っている。
- *登山の会：会員相互交流の場、心と身体を遊ばせる小旅行

HTW 園芸療法研究会西日本の理念

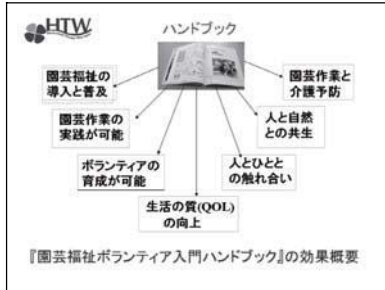
私たちは植物の生長と対話し、再生に癒されながら、会員相互のコミュニケーションを深め、園芸、医療・福祉、市民運動の輪を結び園芸療法及び園芸福祉の研究と普及を図ります。

ハンドブックの内容

冊子 表紙イメージ写真

目次

- 園芸福祉とは.....
- 園芸ボランティアの役割.....
- 園芸福祉の楽しみ.....
- 施設と用具の考え方.....
- 障害の理解.....
- 園芸作業の場所.....
- 植物の選択について.....
- ボランティア活動のマナー.....
- 実践活動の実例集.....
- その他.....



『園芸福祉ボランティア入門ハンドブック』の活用表

項目	冊数	備考
1 会員数 関係希望者	200	総会時に配布(含むNL購読者)
2 勉強会参加者 受講者は講師として	20	会員以外の参加者 テキストとして使用
3 一般向けセミナー	50	テキストとして使用
4 記念講演会×2回	100	50×2回

注) 大学、短大、専門学校の数教材100冊、各種施設・機関へ紹介販売50冊(2+3+4=220冊、220×3年=660冊)

事業の実施スケジュール

平成17年～18年

4月～5月：担当スタッフの編成(プロジェクトとして)、蓄積されたデータ、資料の分析・整理と編集

5月末：章立て、体裁・レイアウト、執筆担当者の決定と執筆依頼、編集会議


6月末：印刷業者と具体的な打ち合わせと見積書依頼

8月末：原稿締め切り

11月末：校正、修正、校了

12月末：印刷終了

平成18年2月：から配布開始



『園芸福祉ボランティア入門ハンドブック』の最終的な印刷体裁

完了の体裁

サイズ：A5版

ページ：80ページ(内訳)全ページ4色刷り

印刷冊数：1500部




『園芸福祉ボランティア入門ハンドブック』の配布先
平成18年2月～平成19年8月

配布先	配布数	備考
一般個人、会員、関係者	716	総会での配布等
各施設・機関、人材センター	376	奈良県福祉センター、和歌山県福祉センター、和歌山県福祉センター、和歌山県福祉センター
大学・短期大学テキスト	117	和歌山県立大学、和歌山県立短期大学、和歌山県立短期大学
一般向けセミナーテキスト	27	秋のセミナー
会社、その他	75	書店、東文工庫、和歌山県立大学、和歌山県立大学、和歌山県立大学
在庫	189	
合計	1,500	

(2007年9月31日現在)

今後の課題

- ① 『園芸福祉ボランティア入門ハンドブック』の配布効果の評価 ⇒ 今後の方向付けのために
- ② 在庫減少による増刷あるいは改訂版の検討
- ③ アドバンスコース用テキストの検討
- ④ 配布の為に経費増の救済(事務費、郵送料、在庫管理、人件費等) ⇒ 出版社経由で販売を検討
- ⑤ 実践・研究10周年記念誌の刊行



ご清聴ありがとうございました



事業名	発表2 「樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト」				
団体名	樹形研究会			発表者	八田 洋章
実施年度	平成18・19年度	事業区分	調査研究開発	所在地	茨城県

私たちの事業の目的は、日本産樹木の600種記載を目標に、『フェノロジー観察図鑑』の完成を目指すということです。フェノロジーという言葉の訳には植物季節学などの言葉が当てられますが、私たちは、取りあえず生きた植物の成長を毎週1回、1年を通して観察し、記録し続けることだと位置付けています。具体的にやっていることは、芽のずれがいつ始まったか、茎がいつ伸び始めて1年間を通じてどのように展開したか。あるいは葉っぱがどのように開いて、いつ全部開いたか。落葉はいつで、タイプはどうだったかなどを調べます。また、いつ花が咲いて満開はいつになったか、果実はいつ熟していつ種子を散布したかという調査を続けているわけです。

ここで私どもの樹形研究会について少しご紹介させていただきますと、筑波実験植物園では、「樹木の生活史を調べよう」という日曜自然観察講座を実施しています。私たちはそれを母体として、メーリングリストに入らせていただいている70～80人の方と意見を交換し、全体の意思の統一を図りながら活動を進めており、実際に調査したり記録を取ったりする仕事には約20名が常に参加しています。皆なかなか熱心で、多い月にはメーリングリストのやり取りが150通にもなったこともあります。講座は一般の方を対象としたもので、年の初めに“自分の木”を決めて、年間12～14回、年間を通して観察します。

私たち樹形研究会のフェノロジー調査は、原則1週間に1回、年間を通して続けていますが、その対象となっているのは筑波実験植物園とその周辺、標高が高い日光植物園と軽井沢で、来年からは沖縄本島、西表島を対象とするよう準備を進めているところです。また、ここ数年、季節変化がほとんどないと言われている熱帯雨林での調査を、インドネシアのボゴール・チボダス植物園で進めてきています。

私どもの調査は開始からもう20年近くの年月を経ていますので、膨大なデータが蓄積されています。スライドでお示ししているのはその一部、ツツジ科、ツバキ科のものですが、レンゲツツジの欄を見ると、1987年に私が調査し、1999年には丸田さん、2002年に佐藤さんと小林さんというように、同じ種を異なる人が異なる年度に調査していることが分かります。もちろん1回しか調査していないものもあります。

そして、調べたデータを種類ごとに一覧表にします。一体どこまでこの種に関して分かっているかを常に把握しておきたいからです。調査項目は芽鱗のずれ（日付）、芽鱗（数）、葉芽の芽吹き時（日付）、托葉（有無）等々で、私たちが完成を目指す5年後までに、データが次々と追加されてくることになっています。

次に大事なのは、種ごとに蓄積される調査票をどのように評価するかです。各自の調査をA、A、B、Cとランク分けしていますが、AAやAは調査がほぼOKのもの、Cは再調査の必要があるものです。これから時間をかけて私たちがやっていかなければならないのは、Cラ

シクスの再調査と、BからAへとなるような補足調査を重ねていくことです。また、フェノロジーをグラフで表すと、開花や茎の伸長について、その年の時間的な経過を見ることができますので、そのようなこともやっています。

もう一つ別に動いている仕事として、日本産樹木のデータベース作りがありますが、これについては既存の図鑑類からデータを得て、日本産樹木ほとんどについて、形質ごとのデータがもう出来上がりつつあります。さらに、今までやってきた仕事としては樹木の分枝図作りがあり、ここでは低木類についてはシュートがどのように更新しているか、高木については枝の伸び方、分枝形態がどうなっているかが記録されています。

例えば高木のコブシでは、比較的若い花をつけた個体ともう十分花を咲かせている種の枝振りが図示されています。亜高木のサンシュウも同様で、若いものと成熟した個体それぞれの節間の長さが非常に克明に描かれています。これだけでも大変に重要なデータを皆さんに提示できるのではないかと考えています。

低木類の場合は、1年目にシュートが1mぐらい伸びます。1年目は葉っぱをつけて、腋芽をつけます。1年目になるとそれぞれ側芽が伸びて、花を咲かせます。3年目にもう一度分枝して花を咲かせ、4年目、5年目にかけて枯れていきます。それに代わって新しいシュートが伸びて、世代が交代していくわけです。

もう一つ、芽生えの調査が進んでおり、およそ200種類ぐらいができています。例えばクロマツで緑の葉っぱが見られるのは、長いクロマツの一生で芽生えの1年か2年の間だけです。また、ムクノキの実生から2年目までにどのような枝が伸びたかという記録は、樹幹形成の非常に初期の段階を示す貴重な記録です。

では、これらの成果を使って私たちがどのようなことをやろうとしているかですが、私たちが作ろうとしている『フェノロジー観察図鑑』では、約600種の日本産樹木のデータベースをまとめたものが総論となるでしょう。一番の中心はフェノロジーの調査結果です。フェノロジーの記録とグラフ、データベース、そして描画、たくさんの写真を載せるつもりです。また、150~200種類については分枝図、芽生えの調査、低木類の材構造を載せたいと思っています。

これにより、日本産樹木の生活史（フェノロジー）の系統だったデータが提示でき、分類群間におけるさまざまな比較研究が可能となり、日本の樹木学、とりわけ生理・生態学的な研究に大きく貢献できるに違いないと考えています。日本はもちろん、世界でもここまで詳細に調べた図鑑はまずないでしょう。今後ともこの事業を進めていきたいと考えています。

<p>樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト</p> <p>樹形研究会 http://group.tokyo-u.ac.jp/group/446 tree@tree.ac.jp</p>	<p>事業の目的</p> <p>『フェノロジー観察図鑑』の完成を目指す</p> <p>(日本産樹木の600種記載目標)</p>	<p>ここで扱う フェノロジー調査とは</p> <p>冬芽の展開後、その年の成長が終わるまでを、毎週一度、観察し、記録する。 とりあえず 生きた植物の成長を年間通して観察し記録し続けること</p>
---	--	--

調査票(項目) 種毎に

芽

- ・ずれ: ・葉芽、花芽、蘆芽、穂芽、鱗芽;
- ・芽鱗の形態、数、托葉: ・芽の大きさ

葉

- ・葉の伸長タイプ(順次、一斉)、
- ・短枝、長枝、当年枝、前年枝、2年生枝: ・葉頂脱落、枯れ戻り

葉

- ・普通葉、総苞、苞、低出葉、・腋葉、落葉のタイプ
- ・常緑樹の落葉、紅葉: ・葉の寿命(樹葉)と着葉期間

花・果実

- ・開花日、満開日、開花終了日、・花の色: 花被片の色
- ・香り: ・落果、種子散布

樹形研究会紹介

日曜自然観察講座
「樹木の生活史を調べよう」
 を母体とし
ML(メーリングリスト)
 を媒体として意見交換(70名)
日常調査には20名前後が参加

日曜自然観察講座
「樹木の生活史を調べよう」

2月25日(日) 第1回:「自分の木」に名札をつける
 3月18日(日) 第2回:冬芽の展開、冬芽の解剖
 4月1日(日) 第3回:葉や花弁のたたまれ方
 4月15日(日) 第4回:開花と芽吹き
 4月29日(日) 第5回:花から果実へ、心皮と子房の関係
 5月13日(日) 第6回:伸長と展葉
 5月27日(日) 第7回:結果の断面
 6月10日(日) 第8回:葉の成熟
 9月23日(日) 第9回:葉の成長
 10月21日(日) 第10回:落果、種子散布
 11月18日(日) 第11回:紅葉と落葉の経過
 12月2日(日) 第12回:冬芽と枝の観察、一年間のまとめ

樹形研究会

メーリングリストのご案内

樹形研究会のメーリングリストは、自然史を中心に、自然観察に関する話題の交換場となります。また、樹形研究会のメーリングリストは、樹形研究会のメーリングリストの運営に協力していただく方を募集しています。詳しくは、メーリングリストの案内をご覧ください。

参加の方法は、.....

参加申込

スタッフ: 鈴木 雅之、大塚 幸夫、大塚 幸夫、大塚 幸夫

A. フェノロジー調査

筑波実験植物園とその周辺、日光植物園・軽井沢、沖縄本島・西表島、ポゴール・チボダス植物園(インドネシア)

A-1. 膨大なデータが蓄積されている

フェノロジー調査結果表

種名	調査地	調査年	調査者	調査日	調査時間	調査内容	調査結果
クヌギ	日光植物園	2004	鈴木 雅之	2004.02.25	09:00-11:00	開花調査	開花
スギ	日光植物園	2004	鈴木 雅之	2004.02.25	09:00-11:00	開花調査	開花
...

種毎にデータを1種(どこまでわかっているか)

種毎にデータを評価 (B:補足調査が必要、C:やり直し)

A-2. フェノロジーグラフ

A-3 描画
幹木・樹皮・大塚氏らを中心に

B. 日本産樹木にデータベース 1600種

データベースのスクリーンショット

C. 樹木の分枝図

(笠原晋久雄氏)

低木類:シュートの更新
 高木:枝の伸び方、分枝形態
 (数年間分)

高木:コブシ

亜高木:サンシュウ

低木:ムクナギサイのシュート更新

D. 芽生えの調査

持田、磯田氏ら

クロマツ

ムクノキ実生形態

成果

フェノロジー観察図鑑

八田洋章(樹形研究会)

水木社

例えばこんなのを作りたい

フェノロジー観察図鑑
—600種目録—

A. フェノロジー調査結果

1. フェノロジー記載、
2. フェノロジー・データベース(総論②)
3. グラフ、 4. 描画、 5. 写真、

B. 日本産樹木のデータベース(総論①)

C. 樹木の分枝図

D. 芽生えの調査

E. 低木類の材構造

シラカバ [白樺] カバノミヅ松 (雄松) 雄松
Pinus platyloba var. *japonica* (B.S.P.) OHSIDA

描画(鈴木・剛武・大塚氏ら) 分枝図(笠原先生の大作)

フェノロジーのグラフ・記載

実生調査(持田/磯田)・低木類の茎断面(若山)

Phenology and Growth Habits of Tropical Trees
Editor: Hiroyuki Hatta, Dohji Shiroshi

デボタス植物園
高野山植物園の樹木と暮らし

<たくさんの方の助力を得て>

期待できる成果

・日本産樹木の生活史(フェノロジー)の系統だったデータが提示でき、分類群間におけるさまざまな比較研究が可能となる。日本の樹木学に大きく貢献できるだろう。

以上

ご清聴有難うございました。

事業名	発表3 「花・緑・造園系雑誌の要約集『花・アブストラクト』」				
団体名	社団法人フラワーソサイエティー		発表者	前川 進	
実施年度	平成18年度	事業区分	活動・行催事	所在地	大阪府

フラワーソサイエティーは、1947（昭和22）年に設立された団体で、戦後の荒廃した中で、「街と人の心に花と緑を」を目的に、市民、財界、大学、大阪府・市などが参画して発足しました。所在地は当初、天王寺公園にありましたが、その後、扇町公園大阪プールを経て、現在は大阪・鶴見緑地公園の「咲くやこの花館」内に事務所を置いています。

活動としては、市民に対する花と緑の啓発事業ということで、各種講習会、セミナー、育苗や植栽などの美化活動を行ってきました。1985年には大阪松坂屋でフラワーフェスティバルを主催し、その後、フラワー大阪との共催でFAGOT（フラワー&グリナリーショー大阪鶴見）に協力し、それが大阪ガーデンフラワーショーにつながっています。また、1990年には、国際花と緑の博覧会（花博）の植栽指導、植物管理などに参画しました。

このように園芸文化の啓発に協力してきたわけですが、最近の財政の窮迫により、公的植栽事業受託の打ち切りがあり、フラワーソサイエティーとしては財政的に厳しい状態に置かれました。しかし、自助努力によってこの局面を打開し、新たな事業展開を図ったわけです。その中の一つが今回助成を頂いた『花・アブストラクト』の発行で、2004年に開始し、今4年目に入っています。そのほか、2004年からプロやアマチュアに対するセミナーや講習会を開催し、2005年からはこの11月24～25日にも行われる「かんさいフラワーショー」の事務局にもなっています。さらに、今年は「園芸大学／花と緑の学び舎」というものを開校し、多くの市民の方が入学されているところです。

今回、国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けた『花・アブストラクト』という事業は、現在、花と緑に関して情報のはんらんし、皆多忙を極める中、花と緑に関する最新の詳細な情報を要約として効率的に入手できることを目的に、小冊子を発行しようというものです。さらに、国内外誌の記事を要約していますので、時代の流れを読むことができます。すなわち、現在は環境に優しいということが時代の流れになっていますが、これを読むと、植物を害虫から防ぐ農薬の情報などが入手できるということです。また、これを郵送やメールで送ることにより、皆さんが情報を共有でき、交流を拡大できるというメリットがあります。さらに大事なこととして、育まれた花文化などの業績を継承できるということもあります。

花・アブストラクトサービスとしては、まず園芸系雑誌からの花と緑の記事の要約があり、購読会員には毎月、メールまたは印刷物でその情報を提供しています。現在は、国内市販誌9誌、国内会員誌6誌、生産に直接関連する雑誌が6誌（海外3誌を含む）、学会誌15誌（国内紙8誌、国外誌7誌）の要約を進めており、その内容についても、花、緑、装飾、流通を含むものを網羅しているところです。

編集委員は専門分野のボランティアで構成しており、私のように70を過ぎた者から30歳代の若い人までいます。さらに、その職業についても、大学、国・県の試験所をリタイアした人、

会社をリタイアした人、主婦、お花の師匠さんなど、いろいろな分野の方が参画して、内部でいろいろなゼミを行いつつ編集作業を行っているところです。編集会議では、『花・アブストラクト』について、新しいものを作ろうではないか、こんな雑誌を入れればよいのではないかといったさまざまな案を練り、内容の修正変更等を決定します。

30名ほどの編集委員がそれぞれ各雑誌を担当し、編集部での数度の校正を経て印刷に回すわけですが、平成18年度に助成を受けて印刷機を購入しました。それにより、借用印刷で印刷時期・従事者調整が煩雑であった製本、発送作業が大幅に効率化しました。その結果、要約集に掲載できる雑誌が増え、「花と緑」に関する多様なニーズに応えるサービスが広がりつつあります。

『花・アブストラクト』には、出典書名とタイトル、発売日、著者、出版元、キーワード、そして目次にはShort in Short、つまり要約の要約ということで「大特集、この時期の準備がポイント。素敵な春の庭の計画として、パンジー、ビオラ、春の花の額縁ハンギング、秋まき草花など」あるいは「深まる秋。花とともに迎えるロマンティックウェディング。ブライダルブーケ、ヘッドドレス、レストランで、南の島で、家庭でのウェディング」というような形でかいつまんだ内容を記載してあり、これを見ておもしろそうであれば実際の雑誌にたどりつけるようになっています

購読者の職種の一覧を見ると、教育普及関係が非常に多いと言えます。あと、生産関係、企業と続いています。流通関係が低いということが今、話題に上っており、今後その方面に力を入れようということになっています。

また、地域別に見た場合、やはり近畿地区の購読者が非常に多いのですが、北日本にも購読者が広がっています。さらに、外国に出張された方が欲しいということで、何件か届けています。それを図示してみたのですが、やはりもう少し全国的に広がり、購読者数が増えればいいなというのが私たちの希望です。

マスコミにも、「大阪の力」といいますか、「関西の力」といいますか、花博後15年、「園芸パワーを全国に」ということで紹介していただきました。

3年を経過して今後の課題としては、先ほども言いましたように、購読者サービスのさらなる向上を目指しています。それには小売店や流通関係の読者のニーズに応えるために、どのようにしたらいいか。送付方法も、ただメールと冊子というだけではなく、もっといい方法はないかと考えています。また、ウェブ配信にしても、装丁の見直しが必要ではないか。また、当然のことながら、花・緑、造園系の情報集約と発信をさらに蓄積して、いいものにしていこうと考えています。



(社)フラワーソサイエティとは

- ・ 設立:1947年(昭和22年)、戦後の荒廃から「街と人の心に花と緑を」を活動目的に発足
- ・ 市民、財界、大学、大阪府・市などが参画
- ・ 所在地:天王寺公園、扇町公園大阪プールを経て、大阪・鶴見緑地公園咲くやこの花館内

活動のあゆみ

- ・ 市民に対する花と緑の啓発事業
講習会、セミナーおよび美化活動
- ・ 1985年大阪松坂屋店でフラワーフェスティバルを主催、その後 FAGOT→大阪ガーデンフラワーショーにつながる
- ・ 1990年の国際花と緑の博覧会(花博)の
植栽指導、植物管理などに参画

情勢の変化

- ・ 財源の窮迫
- ・ 新たな事業展開
花アブストラクトの発行(2004)
各種セミナーの開催(2004)
かんさいフラワーショー(フェア)事務局(2005)
園芸大学/花と緑の学び舎(2007)

花アブストラクトのめざすもの

- ・ 花と緑の情報の効率的な入手
- ・ 時代の流れが読める
- ・ 情報の共有、交流の拡大
- ・ 育まれた文化や業績の継承

花アブストラクト・サービス

- ・ 園芸系雑誌から花みどりの記事を要約
- ・ 購読者に毎月メール、印刷物で提供
- ・ 現在 国内市販誌 9誌
国内会員誌 6誌
生産系雑誌 6誌(海外 3誌)
学会誌 15誌(海外 7誌)
- ・ 編集委員 専門分野のボランティア

助成を受けた効果

- ・ 平成18年度助成により印刷機を購入
- ・ 借用印刷で印刷時期・従事者調整が煩雑であった製本、発送作業が大幅に効率化
- ・ 要約掲載雑誌が増え、「花とみどり」に関する多様なニーズに応えるサービスが広がりつつある



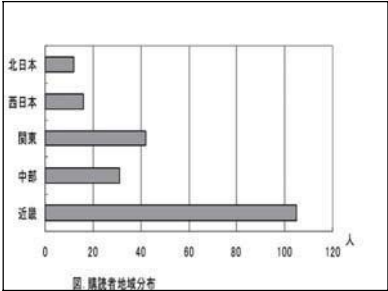
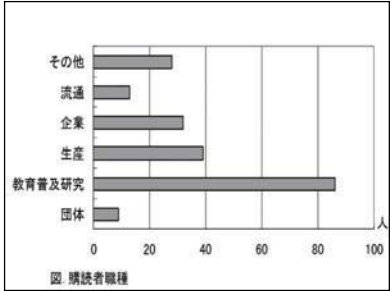
2007年10月号
第10巻 10月号 編集委員の推薦 花アブストラクト

編集委員 推薦記事 10月号

記事名	推薦者	推薦理由
花と緑の未来を拓く	山本 浩一	花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。また、花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。
花と緑の未来を拓く	山本 浩一	花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。また、花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。
花と緑の未来を拓く	山本 浩一	花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。また、花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。
花と緑の未来を拓く	山本 浩一	花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。また、花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。
花と緑の未来を拓く	山本 浩一	花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。また、花と緑の未来を拓くというテーマが、読者に大きな刺激を与える。

Table with 4 columns: 都道府県, 都道府県別会員数, 種数, 備考

都道府県	都道府県別会員数	種数	備考
北海道	1	1	
青森県	1	1	
岩手県	1	1	
宮城県	1	1	
秋田県	1	1	
山形県	1	1	
福島県	1	1	
茨城県	1	1	
栃木県	1	1	
群馬県	1	1	
埼玉県	1	1	
千葉県	1	1	
東京都	1	1	
神奈川県	1	1	
新潟県	1	1	
富山県	1	1	
石川県	1	1	
福井県	1	1	
山梨県	1	1	
長野県	1	1	
岐阜県	1	1	
静岡県	1	1	
愛知県	1	1	
岐阜県	1	1	
三重県	1	1	
滋賀県	1	1	
京都府	1	1	
大阪府	1	1	
兵庫県	1	1	
奈良県	1	1	
和歌山県	1	1	
徳島県	1	1	
香川県	1	1	
愛媛県	1	1	
高知県	1	1	
福岡県	1	1	
佐賀県	1	1	
長門県	1	1	
熊本県	1	1	
大分県	1	1	
宮崎県	1	1	
鹿児島県	1	1	
沖縄県	1	1	



3年を経過して 今後の課題

- ・ 購読者サービスのさらなる向上を目指す
小売店の読者ニーズに応える
送付方法、Web配信の装丁の見直し
- ・ 花・緑・造園系の情報集約と発信・蓄積

事業名	発表4 「中越震災みどり復興ワークキャンプ」				
団体名	中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会	発表者	秋山 寛		
実施年度	平成18年度	事業区分	活動・行催事	所在地	東京都

「中越震災みどり復興ワークキャンプ」という組織は、長岡を中心とした新潟県の方々で作っている「中越震災みどり復興アクションプログラム委員会」の方々と、復旧を応援する中越外部のランドスケープアーキテクトで作られています。ですから、私たちはサポーターというスタンスです。

この組織の目的の一つは、地域の方々のお話を聞く中でランドスケープアーキテクトが、何ができるかを考えることで、緑化のお手伝いをしたり、川口温泉の「火ぼたる」という雪の日にろうそくでホテルを作って楽しむ町おこしのイベントに参加したりしています。目的の二つ目は、参加者同士および地元の方々とのコミュニケーションをとるということです。中越の中山間地は、集落が破壊される、暮らしがなくなるという限界集落の問題が起きている所で、そういう中で震災が起こったことにより集落を離れるスピードが速まっていると言われます。そういう問題を地元の人と考えていこうということ。三つ目は、ランドスケープアーキテクトとして、今後の復興に生かせる提案をしていこうということで、妙見崩れの復興プランを提案しています。

これは震災9カ月後の長岡市悠久山公園、濁沢温泉地区のスライドです。元気を出してやっといこうとされていた温泉旅館でも、客がなかなか戻らないということでやめられた方が出ているようです。中越のような雪の多い地域では、半年は雪に閉ざされて復旧工事ができないということで、災害対策基本法の復旧にかかわる2年という期限が、中越でもなぜ2年なのかという不満が地元にはあるようです。

優太君が奇跡的な生還をした妙見崩れでは、埋まった県道をどう元に戻していくかが話題になりました。のり面はJRがもう直していましたが、県道に関してはモニュメントとして崩れたまま残していこうという意見と、もう見たくないから早く復旧しようという意見に分かれたそうです。クラックができた小千谷市東山地区の錦鯉の池も、崩れた闘牛場もまだ復旧していません。それから1年後に訪れたときには、クラックが一層大きくなっていて、本当に地滑り地帯なのだということを実感しました。9カ月後には旧山古志村役場があった油夫の谷も、ブルーシートがかけられたままで、まだ復旧もされていませんでした。木もゆがんだままで、微妙にゆがんだ建物が残っていました。きれいな棚田がこのようになってしまったということで、象徴的な場所かなと思っています。

1年9カ月後、同地区ではのり面がきちんと保護され、油夫の谷が中越の地震で崩れた土を埋め立てる場所になって、沖縄から北海道までのダンプカーが全部集まって一夏で土砂を片付け、今は平らな場所ができています。

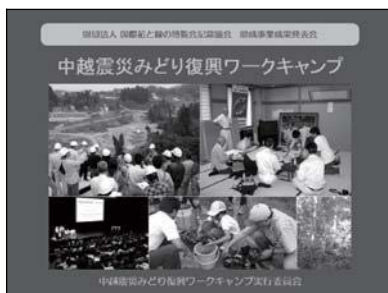
18年度は、今お見せした一連の活動の中で花博からの助成金を使わせていただきました。長岡市民防災公園デザインコンペでは、中越ワークキャンプとして応募して優秀賞を受賞してい

ます。また、「中越震災みどり復興プラン06夏」も作っていますが、今後も震災復興に向けてランドスケープから具体的な提案をしていき、それをできるところからやっっていこうという形で使っていただければと考えています。また、そのままでは「緑豊かなふるさとの復興」はない、まさに油夫の谷のような所はランドスケープが最も生かせるフィールドではないかという考えから、地元の方とも相談して、油夫の谷の復旧を進めているところです。去年の秋に催したシンポジウムには、350人ぐらい集まっていただきました。

18年度のまとめとしては、「震災復興メモリアルリング」ということで、ランドスケープを主体にプランニングのまとめをしました。国道291号線を軸に、芋川の河道閉塞した所、妙見崩れの現場、川口の蒼丘の杜をリンクして中越の復旧の核にしていこうということを考えています。もう一つは「山古志フィールドミュージアム」ということで、ブナの森や埋め立てられて平らになった油夫の谷をリンクして「営農コミュニティフィールド」とし、このエリアを拠点とした環境学習をやっっていこうというプランをたたき台として提案しています。

19年度はプランの具体化の段階に来たという位置付けで、幾つかあるプロジェクトの中で、今、「ブナの森づくり」ということをやっています。長岡が縄文からのブナの自然植生の南限ということで、皆でブナの森を再生しようということになっています。その苗拾いの模擬試験をこの夏に皆でやって、700本の苗を作りました。また、夏はブータンに行っている杉原さんという女性から、ブータンではGNPではなく、GNHというもの、すなわち、幸せ量を国民の大切なものとしてやっっていこうとしているという話を山古志でいただきました。このようにみんなで勉強する段階から具体的な各論に移って、その参考にとっということをやっているところです。

この11月10日、11日には「森からの発想 創る・感じる・育む」ということで、またワークキャンプを実施します。いろいろなところからご寄付を頂いておりますが、参加費を割安にすることなどを考えておりますので、ぜひご参加ください。今回は造園家の涌井先生、日本環境教育学会会長の小澤先生にもお越しいたいただき、いろいろ議論しながら中越を考えてみようというプロジェクトです。地元の方と餅つきなどもやろうと考えており、ここで取った2000~3000本ぐらいのブナの苗で1万本の苗を山古志で育てようと考えているところです。地に足が着いた活動にしていきたいと思っています。



中越震災みどり復興ワークキャンプの目的

②参加者同士および地元の方々とのコミュニケーションをとる



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災みどり復興ワークキャンプの目的

③今後の復興活動に活かせる提案をする



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

①湯久山地区



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

①湯久山地区



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

②清沢地区 (濁沢温泉)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

②清沢地区 (濁沢温泉)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

②清沢地区 (濁沢温泉)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

③砂丘 (後大ちゃんが生道を果たした現場)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

③砂丘 (後大ちゃんが生道を果たした現場)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

④小千谷市 黒山地区



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

④小千谷市 黒山地区



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

④小千谷市 黒山地区



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

④小千谷市 黒山地区



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

⑤油天地区 旧山古志村役場 (現 長岡市役所山古志支所)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から1年9ヶ月一

⑤油天地区 旧山古志村役場 (現 長岡市役所山古志支所)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から2年一

⑤油天地区 旧山古志村役場 (現 長岡市役所山古志支所)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から2年4ヶ月一

⑤油天地区 旧山古志村役場 (現 長岡市役所山古志支所)



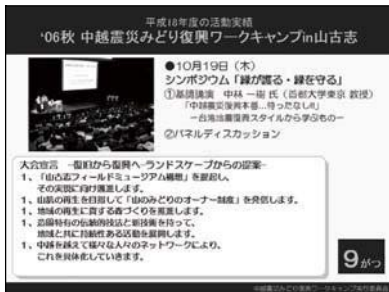
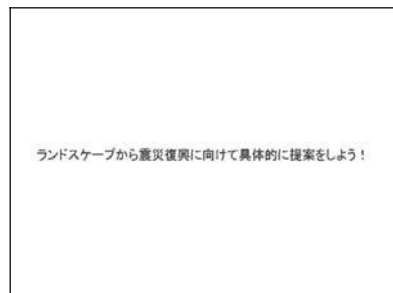
中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局

中越震災の被害状況 一震災から9ヶ月一

⑤油天地区 旧山古志村役場 (現 長岡市役所山古志支所)



中越震災みどり復興ワークキャンプの事務局



事業名	発表5 「アヤメ科植物遺伝子資源保全のための日中共同研究」				
団体名	財団法人花と緑の銀行			発表者	中田 政司
実施年度	平成18年度	事業区分	調査研究開発	所在地	富山県

花と緑の銀行は、県が緑化推進のために作った外郭団体で、富山県中央植物園の指定管理者になっています。植物園は平成8年にできた日本海側では初めての総合植物園で、植物の展示や教育・普及、調査研究活動を行っています。また、設立当初から中国雲南省から植物を導入しており、ワシントン条約に定められた正規の輸出入手続きを経て、これまで600種類余りの植物を導入しました。さらに平成12年の導入事業終了後も5期10年にわたり「雲南省の貴重植物に関する保全・生物学的調査研究」という全体テーマで共同研究を継続し、平成13・14年にはベゴニア、平成15・16年にはマメ科の研究を行いました。

今回、助成を頂いたアヤメの研究は、平成17・18年度に行ったものです。アヤメ科は世界に70属1500種存在し、日本にはアヤメ属が9種、ヒオウギ属が1種、雲南省にはアヤメ属が24種、ヒオウギ属が1種存在します。アヤメの仲間は古くからハナショウブのように園芸化されているのですが、野生状態では絶滅の危機に瀕しています。日本と雲南省ではカキツバタ、シャガ、イチハツ、ヒオウギという全く同じ種が4種類ありますが、日本にあるシャガとイチハツは中国原産説があり、今回はそれも合わせて調査してみました。

文献・標本によると富山県には7種類ほどの自生アヤメがありますが、どこにでもあるシャガを除けば、ほとんどが絶滅危惧種になっており、栽培逸出と思われるものも原因がよく分からない状態でした。

カキツバタの自生地での現地調査では、皮肉なことにゴルフ場ができたおかげで、その一角にある湿原に残っていることが分かりました。これまでヒオウギは逸出したものが1種類あると言われていたのですが、20年ぶりに新しく1カ所自生地が見つかり、その群落の調査で非常に自然度の高いものが出てきました。このヒオウギは、富山県の絶滅危惧種に指定される見込みです。垂直分布で見ると、ヒオウギは標高500メートル弱ぐらいの所に出てきます。さらに、富山県に出てくる野生のアヤメの仲間について染色体数も調べたのですが、従来報告されているとおりでした。

また、私どもでは、野生種だけではなく、園芸種も対象にした保全を考えておりますが、富山県には頼成の森水生植物園に600種類ほどのハナショウブがあります。それについて全部種類を再確認しながら写真を撮り、一部について染色体数を確認しています。18年度は約3分の1終わり、今年継続して3分の2をやって、いずれパソコンに取り込んでデータベースにしようと思っているところです。

これからは中国の話です。主に日本と共通する種類を見ました。カキツバタ、シャガ、イチハツは雲南省では1カ所、国家級の保護区、保山地区騰冲北海湿原にだけ出ています。小川につながる斜面なのですが、上部にイチハツ、下部にシャガが住み分けているのが現状で、場所は、大理石で有名な大理の辺りです。ヒオウギは少し南の方になります。自生地が無くなって

いて、現地の人に聞いても分からない状況が多かったのですが、比較的乾燥した石灰岩の露出のある山（文山区西畴法頭偏岩）に自生があることが分かりました。

特に今回、保全ということが頭にありましたので、野生のものをどのように利用しているかという聞き取り調査を地元の人に行いました。例えばヒオウギは根茎を薬用にするということで、かつて標本が採られた場所では野生のものはもう全然なくなっていました。また、文山や金平という所では、やはり根茎部を胃薬として利用するために、見つけたら持ち帰って自分の畑で栽培するということでした。また、人の背丈を越すような非常に巨大なヒオウギがありましたので、昆明の植物園で今、実態を調べているところです。そのほか、地元の少数民族のハニ族(哈尼族)では、難産のときに用いるが使い方には経験的な判断が必要であることなど、いろいろな貴重な情報が得られました。

また、日中共通種以外にも、中国にしかない種や、いろいろな野生種についても調査を行いました。例えば切り花にしても夕方咲くという面白い性質を持ったものもありましたし、果実の形態、根の形態、種子の形態もさまざまです。種子は散布様式に応じて形が変わっていて、非常に多様であることが分かりました。

また、保全をするためには組織培養系を確立しなければなりませんので、今、カルスから新しい個体を得る組織培養実験をやっているところです。これは1年ではとても終了しませんが、種子を無菌的に採取して、ピクロラムという物質を入れるものと入れないものを比較して調べているところです。また、これ以外にも、葉や種子、花粉の走査電子顕微鏡での観察などを通して多様性の調査なども行っています。

18年度の総括としては、まず富山県のいろいろなアヤメ科の野生植物の現状が把握できました。今後はそれを自生地の保全や自生地外保存（植物園での保存）などへ応用していくことにしています。また、ハナショウブを中心としたデータベースづくりを継続して行いました。それから、中国の雲南省におけるアヤメ科野生植物の自生地調査では、今回、保全のために必要な基本的な情報を得ることができました。日本と共通する種類、中国で独自に分化している種類を形態的・遺伝的に比較することで、アヤメ科の日本と中国における分化などの研究に貢献できると考えています。中国雲南省のアヤメ科野生植物についてもデータベース化の作業を進めているところです。

今回、2年間の調査研究期間を終え、報告書を作成しましたが、一般の方にも成果を公開したいということで、植物園では毎年1回、年度末の研究発表会以外にも、時には新聞発表なども行っています。



事業名	発表6 「巨樹・古木『おじいさんの木をみつけよう』」				
団体名	(特)おおさか緑と樹木の診断協会		発表者	澤田 清	
実施年度	平成16～18年度	事業区分	活動・行催事	所在地	大阪府

私どもは、大阪市内に住んでいる樹木医約60人が中心になって、平成16年1月にNPOの法人格を取った組織です。当初、どういう活動をしようかと皆でいろいろ話し合ったのですが、最終的には天然記念物や、府市町村の保護や保全の指定を受けていない樹木で、地域の人たちに大切にされてきた木を探し出して面倒を見ようということ、「おじいさんの木をみつけよう」と称してやることにしました。花と緑の博覧会が行われた前年、平成元年に「大阪みどりの百選」が決められ、同年「おじいさんの木探検隊」というイベントが3回行われましたが、その「おじいさんの木」を活動の名前として頂いたのです。

その後、「そのような木を探し出すにはどうしたらいいのかな」という話し合いの中で、地域の人たち、特に子供たちを交えて情報を集めて探していこうという方針が固まりました。なぜ子供たちと一緒にやるのかというと、「おじいさんの木」には二つの意味がある。一つはその木そのものが大きな古い木だということで、もう一つは、「わしが子供のころになあ、樹木医というおっさんが5～6人来て、この木のことをいろいろ教えてくれたんや。わしは友達3人と木の太さを測る班やった。木の高さを測る班もあったで。その後、おっさんたちは『この木を大事にしてや。大事にするにはこないしたらいいで』といろいろ教えてくれたんや。わしはおっさんの言うたとおり、一生懸命大事に育ててきた。わしはもう80歳になったけれども、それから考えると、この木は100歳以上のおじいじゃ」と、お年寄りが木の語り部として昔の話をしてくれる、それがまさしく「おじいさんの木」ということではないかと考えているからです。

それでは、私たちのイベントをご紹介します。私どもは平成16年から17年にかけて助成を頂き、大阪府下を五つに分けてグループごとに活動を進めたわけですが、私たちの活動は「子供たちと一緒に保全に励み、後世に緑の文化財として残していく」ことが最大の目的であるとうたっています。その対象となる木は「地域で大切にされている大きな木、古い木、珍しい木、いわれや愛称のある木」で、所有者と地元住民ならびにNPOおおさか緑と樹木の診断協会とが協力して守っていくことができる木を対象とします。平成16年から18年の3年間に、大阪府下で28の木を登録させていただきました。

「おじいさんの木」登録は、国、府、市町村から保護樹木等の指定を受けていない樹木で、次の各号のいずれかに該当するものについて行います。(1)古くから地域住民に親しまれ、歴史上または学術上価値のある樹木であること。(2)健全で樹形が美観上優れているもの。(3)珍しい木でその木としては樹形の大きなもの。(4)1.3mの高さにおける幹の周囲がおおむね1.5m以上あること。(5)木の高さが概ね15m以上あること。(6)株立ちした樹木で木の高さがおおむね3m以上あることです。

登録番号1番の木は、箕面小学校のカキノキです。教頭先生から「うちのカキノキの実を採

るときに、小学3年生に柿について話をしてくれないか」というお話があって、17年は子供たちだけ、18年は父兄にも一緒に話をさせていただきました。

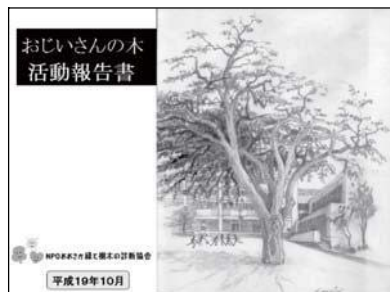
登録番号15番は河内長野の駅前が再開発されたときに、地域の方々がご苦労されて一本残したクスノキです。古いお庭にあったものです。

登録番号17番は平野から北に向かって延びる大昔の街道筋の傍らに立つ乾のエノキです。江戸時代に一里塚が造られたのと同じ形のもので、これで三代目の木と聞いています。

登録番号19番は枚方の山田小学校にある木です。最初は昭和4年の卒業生が植えたユリノキだということで、秋は真っ赤に紅葉するというのでハナノキという名前にしてありましたが、実はトウカエデでした。

登録番号23番は和歌山に近い泉南にあるフジノキで、昭和62年に鉢植えのフジを自分の庭に植えたところ、27×30メートルの藤棚に咲く大きな木になったということです。それで近所の人も含めて保存会を作られ、その保存会の中に私たちのNPOも入ってくれないかというお話があったわけです。スライドでは昔の装束をした人が出てきてイベントをしていますが、2006年には2万7000人の方が花の時期にお見えになったそうです。

最後は豊中の天竺川のキリノキです。この木は2本あるのですが、地域の方々がいろいろ世話をしていращるそうです。



「おじさんの木」事業の目的

大阪府に存する「おじさんの木」を見つけ出し、地域住民、特に

子供たちと一緒に保護・保全に励みながら、後世に緑の文化財として残り、次代に伝えていくことを目的とします。

「おじさんの木」の定義

「おじさんの木」とは、地域で大切にされている

大きな木 古い木 珍しい木

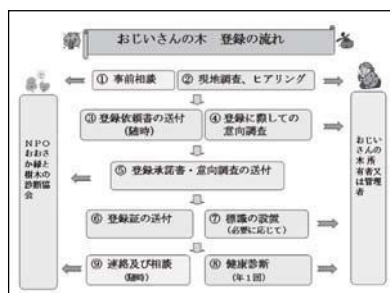
いわれや愛称のある木

などです。そして所有者と地元住民ならびにNPOおおさか緑と樹木の診断協会とが協力して守っていくことができる木を対象とします。

「おじさんの木」登録の基準

国、府、市町村から保護樹木等の指定を受けていない樹木で次の各号のいずれかに該当するものについて行います。

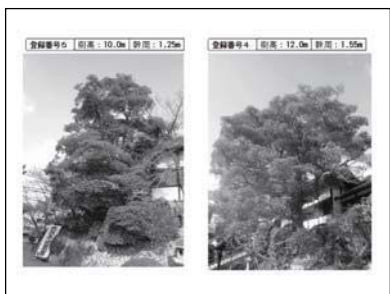
- (1) 古くから地域住民に親しまれ歴史又は学術上価値のある樹木であること。
- (2) 健全で樹形が美観上優れているもの。
- (3) 珍しい木でその木としては樹形の大きなもの。
- (4) 1.3mの高さにおける幹の周囲がおおむね1.5m以上あること。
- (5) 木の高さがおおむね1.5m以上あること。
- (6) 株立ちした樹木で木の高さがおおむね3m以上あること。



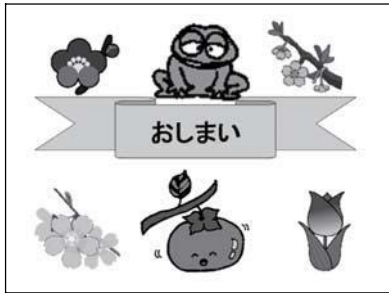


おじいさんの木 登録木一覧

登録番号	所在地	樹種	樹高	幹周	幹径
登録番号1	所在地：箕面市の家1-1-7	カキノキ	7.55m	0.65m	
登録番号2	所在地：南河内郡太子町1-0-1-0	タブノキ	8.00m	2.82m	
登録番号3	所在地：西方法院	イチヨウ	20.0m	3.50m	
登録番号4	所在地：南河内郡太子町2-1-0-1-0	モッコク	12.0m	1.55m	
登録番号5	所在地：道明寺天満宮	クスノキ	23.0m	5.90m	
登録番号6	所在地：道明寺天満宮	ムクロジ	20.0m	2.20m	
登録番号7	所在地：道明寺天満宮	ムクロジ	10.0m	1.25m	
登録番号8	所在地：道明寺天満宮	クスノキ	12.0m	3.45m	
登録番号9	所在地：道明寺天満宮	ムクノキ	12.0m	3.50m	
登録番号10	所在地：道明寺天満宮	ムクノキ	12.0m	3.45m	
登録番号11	所在地：道明寺天満宮	ノウゼンカズラ	7.0m	1.13m	







今日の発表につきましては、4年間で63件助成されておられる、その中の6つで、良い結果を出し、進捗されている人たちが選ばれていたと拝察申し上げます。懐かしい顔を拝見させていただきまして、そのとき、そのとき、折々の審査風景を思い出した次第です。

審査に関して私どもが一つ感じておりますのは、研究分野と活動分野に分けて審査しております、今日の6つで申し上げますと、明らかに研究分野、研究分野と申しましても中間領域のようなものもあります。研究と活動の領域の区分けというのは難しいのですけれども、一般的に、抽象的になりますが、普遍化していくことによってより広く、客観的に結果などを伝えるというのが研究で、活動というのは基本的には地域に根ざしたものであり、そこには科学とかそういう問題とは全く別の次元があります。ただ、研究、活動と区別しましても、たとえば熱や意思や思い入れが研究にもないとおかしいわけですし、活動は元々そういうところから生まれているのだと思うのですが、普遍化していくところが、私たちが一番興味のあるところでは。

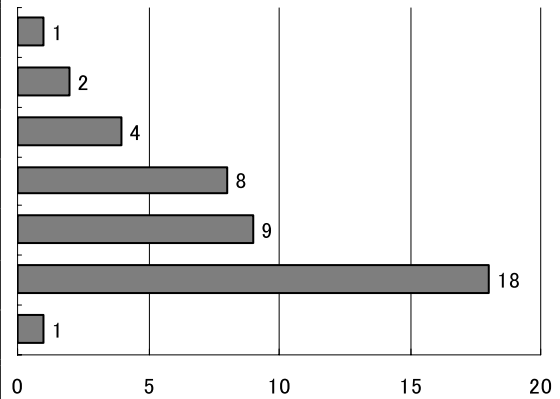
私たち審査委員が一番頭を悩ませますのは、プレゼンテーションが上手か下手かという問題ではないのです。活動されている中身というのは皆さん甲乙つけがたくて、落ちられたものでもすごいのがたくさんあったのです。ただ、それを見本として波及効果があるかどうか。全然違うことをやっていたとしても、インパクトをよその地域の人たちに与えて、次の種をまくことができるかどうかということです。たとえば、中越（震災みどり復興ワークキャンプ）は、実際の被害を受けられたその地域、復興しなければいけない人たちとそこに他地域からボランティアの人たちが入っていかれることによって一つの不幸をいかに幸せの面につなげていくか、という活動の成果を、またそれぞれの地域へ持って帰って一つの実にされる。そういう意味で、大変広がりのある活動でもあり、またある意味では、研究領域もちょっと入っているなという、中間領域であるように思いました。

最後になりましたが、たくさんの市民の方が来られていますので、ぜひ私たちのものもという事で応募していただければ幸いに思います。今後、この助成事業が日本だけでなく世界に広がって、園芸という地域に根ざした文化がどんどん花咲くように、助成させていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

アンケート集計

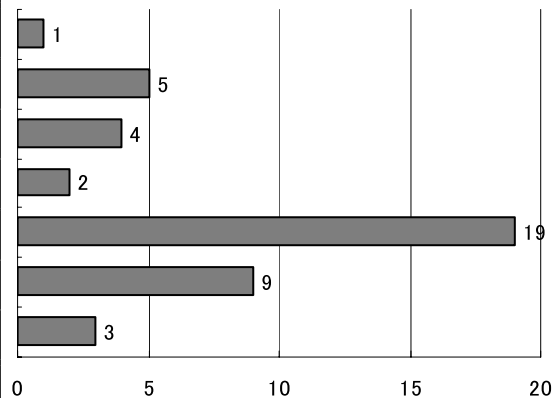
問1 所属について（複数回答）

	件数	割合
ア 大学・研究機関	1	2.5%
イ 教育関係者	2	5.0%
ウ 企業	4	10.0%
エ 団体職員・公務員	8	20.0%
オ NPO 関係	9	22.5%
カ その他	18	45.0%
無回答	1	2.5%
合計	40	100.0%



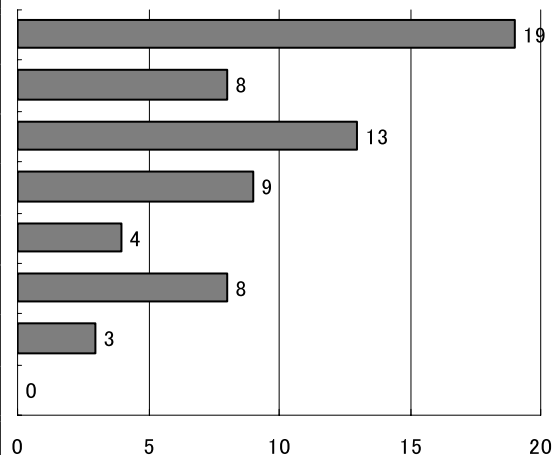
問2 どのようにして発表会を知ったか（複数回答）

	件数	割合
ア ポスター	1	2.5%
イ チラシ	5	12.5%
ウ ホームページ	4	10.0%
エ 友人・知人から	2	5.0%
オ 所属団体から	19	47.5%
カ その他	9	22.5%
無回答	3	7.5%
合計	40	100.0%



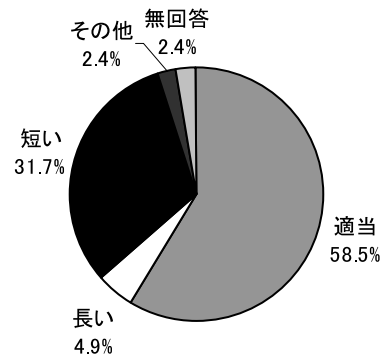
問3 参加動機について（複数回答）

	件数	割合
ア 発表内容に興味があった	19	47.5%
イ 発表団体に興味があった	8	20.0%
ウ 助成事業に興味があった	13	32.5%
エ 助成事業に応募したい	9	22.5%
オ 友人・知人に誘われた	4	10.0%
カ 所属団体から	8	20.0%
キ その他	3	7.5%
無回答	0	0.0%
合計	40	100.0%



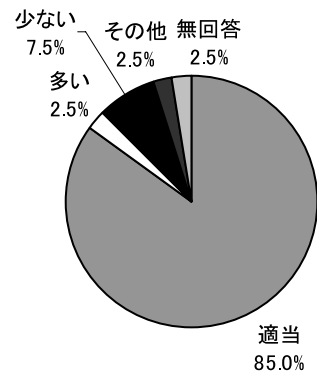
問4 発表時間について

	件数	割合
ア 適当	24	58.5%
イ 長い	2	4.9%
ウ 短い	13	31.7%
エ その他	1	2.4%
無回答	1	2.4%
合 計	41	100.0%



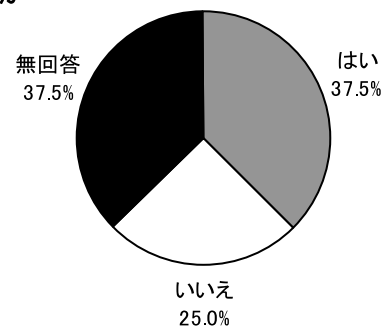
問5 発表数について

	件数	割合
ア 適当	34	85.0%
イ 多い	1	2.5%
ウ 少ない	3	7.5%
エ その他	1	2.5%
無回答	1	2.5%
合 計	40	100.0%



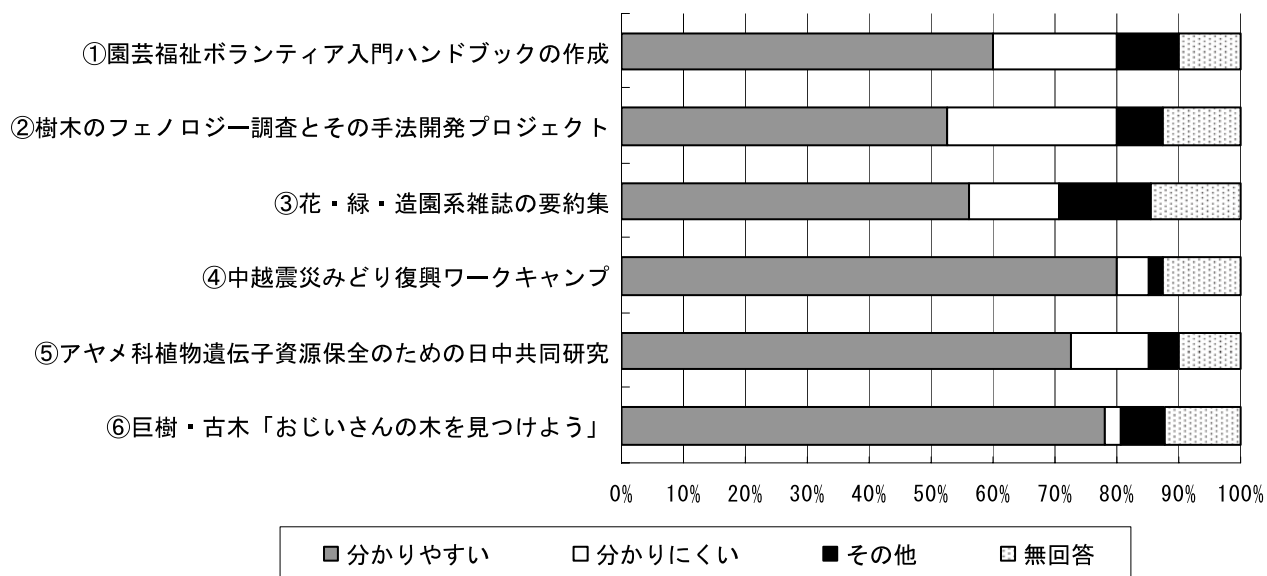
問7 平成20年度 助成事業に応募しようと思うか

	件数	割合
ア はい	15	37.5%
イ いいえ	10	25.0%
無回答	15	37.5%
合 計	40	100.0%



問6 発表はわかりやすかったですか？

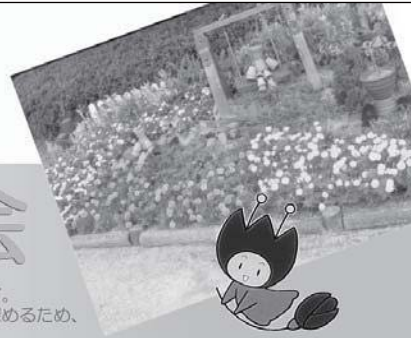
	①園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成	②樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト	③花・緑・造園系雑誌の要約集	④中越震災みどり復興ワークキャンプ	⑤アヤメ科植物遺伝子資源保全のための日中共同研究	⑥巨樹・古木「おじいさんの木を見つけよう」
ア 分かりやすい	24 60.0%	21 52.5%	23 56.1%	32 80.0%	29 72.5%	32 78.0%
イ 分かりにくい	8 20.0%	11 27.5%	6 14.6%	2 5.0%	5 12.5%	1 2.4%
ウ その他	4 10.0%	3 7.5%	6 14.6%	1 2.5%	2 5.0%	3 7.3%
無回答	4 10.0%	5 12.5%	6 14.6%	5 12.5%	4 10.0%	5 12.2%
合計	40 100.0%	40 100.0%	41 100.0%	40 100.0%	40 100.0%	41 100.0%



(財)国際花と緑の博覧会記念協会

助成事業 成果発表会

当協会の助成を受けて進められた活動の成果を発表します。
今後応募を希望される方や関心のある方の交流と理解を深めるため、
多くの方のご参加をお待ちしております。



発表団体（予定、順不同）

- 「園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成」
園芸療法西日本（大阪）
- 「中越震災みどり復興ワークキャンプ」
中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会（東京）
- 「花・緑・造園系雑誌の要約集『花・アブストラクト』」
（社）フラワーソサイエティ（大阪）
- 「巨樹・古木『おじいさんの木を見つけよう』」
おおさか緑と樹木の診断協会（大阪）
- 「樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト」
樹形研究会（茨城）
- 「アヤメ科植物遺伝子資源保全のための日中共同研究」
（財）花と緑の銀行（富山）



- 日時** 2007年10月20日(土)
午後1時半～4時半（開場午後1時）
- 場所** 南御堂 教化センター会館1F
- 定員** 80名（先着順。後日参加証をお送りします。）
- 申込** ①氏名 ②年齢 ③郵便番号・住所 ④電話番号
をご記入の上、ハガキ、ファックス、メールにてお申込下さい。
〒536-0036
大阪市鶴見区緑地公園2-136
(財)国際花と緑の博覧会記念協会 企画課
- 申込・問合せ**
◆TEL 06-6915-4516
◆FAX 06-6915-4524
◆MAIL hanahaku@expo90.jp

参加無料



南御堂 教化センター会館
大阪市中央区久太郎町4-1-1
◆TEL: 06-6251-5820(代)
◆アクセス
地下鉄御堂筋線「本町」駅B号出口
地下鉄中央線「本町」駅13号出口

♪平成20年度の公募についての質疑応答の時間を設けております。
この機会に是非ご来場の上、ご質問やご意見をお寄せ下さい♪

※お申込み頂いた個人情報は厳重な管理の上、当発表会運営以外の目的で使用することはありません。

駐車スペースがございませんので、
お車でのご来場はご遠慮ください。

チラシ

参加証

*** 参加証 ***

(財)花博記念協会助成事業 成果発表会

日時：2007年10月20日(土)
開会 午後1時30分 【開場 1時～】
閉会 午後4時30分
場所：南御堂 教化センター会館1F
〒541-0056
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL (06) 6251-5820 (代表)

※本証で1名様の入場が可能です。
※当日受付にて本証をお渡し下さい。



※お申込みありがとうございました。

*** 問い合わせ ***

(財)国際花と緑の博覧会記念協会 企画課
〒538-0036
大阪市鶴見区緑地公園2-136
TEL ◆06-6915-4516
FAX ◆06-6915-4524
MAIL ◆hanahaku@expo90.jp
(平日 午前10時30分～午後5時30分)

U プログラム

財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 助成事業 成果発表会

このたびは、花博記念協会助成事業 成果発表会にお越し下さりまして、誠にありがとうございます。

花博記念協会は、1990年（平成2年）に大阪・鶴見緑地で開催された花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓蒙につながる研究開発や諸活動を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、平成16年より助成事業の公募を行っております。この発表会は、これまでに当協会の助成を受けた団体の事業成果を報告していただくものです。

当発表会を通して、皆様の興味や交流が深まること、そして皆様が花と緑に関わる活動に、また当協会の助成事業に関心を持っていただくきっかけになることを、心より願っております。

** 進行次第 **

- 13:30 開会・主催者挨拶
- 13:35 発表（3団体）
- 14:30 休憩
- 14:45 発表（3団体）
質疑応答
- 16:10 平成20年度助成事業の公募について
- 16:30 閉会

①

発表団体 紹介

* 園芸療法研究会西日本 *

(大阪/H17年度)

「園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成」

毎年行っている会員向け勉強会や一般市民向け園芸講座の成果をもとにして、園芸福祉ボランティア育成や各施設・機関への園芸導入のきっかけになる情報をコンパクトにまとめた入門ハンドブックを作成し配布する。

* 樹形研究会 *

(茨城/H18・19年度)

「樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト」

フェノロジー図鑑(日本産樹木の500種記載2000p.を想定)作成のための基礎調査を行う。18年度は100種の調査を行い、データを同一手法で集積する。本3年計画で計300種のデータベースを構築する。

* (社)フラワーサイエティ *

(大阪/H18年度)

「花・緑・造園系雑誌の要約集『花・アブストラクト』」

情報が氾濫する現代において、花・緑・造園系の要約集を作成することにより、花・緑に関する多くの最新情報が効率的に入手でき、情報の共有など普及啓蒙を図る。

②

発表団体 紹介

* 中越震災みどり復興ワークキャンプ実行委員会 *

(東京/H18年度)

「中越震災みどり復興ワークキャンプ」

平成16年10月に起きた中越地震の被災地とりわけ中山間地の復興と活性化に対して、ランドスケープによる保全と再構築の視点から環境整備、空間整備及び地域資源の活用計画などハード、ソフト両面の計画立案、行動計画を行った。

* (財)花と緑の銀行 *

(富山/H18年度)

「アヤメ科植物遺伝子資源保全のための日中共同研究」

日中両国に自生あるいは園芸植物として栽培されているアヤメ科植物を遺伝子資源として保全するため、富山県と雲南省において共同で現地調査を行うとともに、データベースを作成するため、自生および栽培されている個体について特性を調査した。

* おおさか緑と樹木の診断協会 *

(大阪/H17・18年度)

「巨樹・古木『おじいさんの木をみつけよう』」

都市化した大阪府内にも国の天然記念物をはじめ、都市化した大阪府内にも国の天然記念物をはじめ、「おじいさんの木」といわれている巨樹・古木が残され、歴史の語り部、緑の文化遺産として保存保護に努めている。分布、成育、外観等の専門的な調査を行い、広く府民に周知し、貴重な緑の伝承と保護、愛護精神を啓蒙する。

③

* 平成16年度 助成団体 *

	地域	団体名	事業名	助成金額 (千円)
調査研究開発	1 東京都	(社)日本造園学会	「海外の日本庭園」の調査	500
	2 秋田県	みちのく植物研究会	東北地方におけるエンレイソウ属の調査研究	250
	3 京都府	(特)社農学会	中京地域の社会における樹種等調査	220
	4 長野県	長野県園芸福祉研究会	継続的園芸活動がもつ高齢者への健康増進効果に関する研究	500
	5 神奈川県	麻布大学動物人間関係学研究室・ドルフィンプロジェクト	園芸療法と動物介在療法	500
活動・行啓事	6 大阪府	ボランティア団体 癒しの園芸の会	癒しの園芸の会の実習花壇と農園の整備並びに維持管理作業と、障害者・高齢者との園芸交流推進	500
	7 東京都	コミュニティガーデナー・ネットワーク	コミュニティガーデナー・ネットワーク交流事業	500
	8 大阪府	(特)おおさか緑と樹木の診断協会	巨樹・古木 仮称「おじいさんの木をみつけよう」	500
	9 東京都	アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム2004組織委員会	アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム	1,000
	10 大阪府	(財)大阪府みどり公社	子供たちとつくる花いっぱい街づくり事業	1,000
	11 大阪府	みどりの5団体合同フォーラム実行委員会	みどりの5団体合同フォーラム	1,000
	12 米国	ビュージェットサウンド日本庭園協会	第4回日本庭園国際シンポジウム	1,000
	13 大阪府	琵琶湖を戻す会	第四回「琵琶湖外来魚シンポジウム」	260
	14 大阪府	大泉緑地ヒーリングガーデンナークラブ	大泉緑地ヒーリングガーデンナー養成講座	41.9
	15 東京都	みどり研究会	社会的企業による「みどり」整備に関する国際比較セミナーの開催	980
	16 奈良県	(財)たんぽぽの家	福祉施設における「グリーン化」セミナーの実施	1,000
	17 東京都	(財)日本野鳥の会	カラスフォーラム 都市におけるカラスと人の共存をめざして	200

④

* 平成17年度 助成団体 *

	地域	団体名	事業名	助成金額 (千円)	
調査研究開発	1	兵庫県	GBIF 日本委員会標準ラベル英訳検討グループ	自然史標準ラベル情報の英訳の技術の開発	1,000
	2	滋賀県	関西ミツバチ研究会	在来種ニホンミツバチの分布全国調査	1,000
	3	長野県	長野県園芸 福祉研究会	園芸活動における高齢者へのストレスレベルの同定	500
	4	東京都	生物多様性 J A P A N	東南アジア地域での外来種問題国際会議と知識の普及	1,000
	5	東京都	(社)日本造園学会	「海外の日本庭園」の調査	1,000
	6	長野県	花卉生産流通システム研究会	切り花の日持ち評価レファレンステストマニュアル作成	800
	7	沖縄県	国際マングロープ生態系協会	西表島浦内河口域のマングロープ分布と貝類の棲息調査	995
	8	北海道	外来種生態 管理研究会	ヌートリアが湿地植生に及ぼす影響調査と防除手法開発	955
活動・行催事	9	大阪府	(特)カムナプロジェクト	葦と葦船を核とした教育・環境・国際交流事業	500
	10	東京都	(財)東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館	「植物の肖像—江戸から現代まで」展(仮称)と関連事業	500
	11	大阪府	堺千年の森クラブ	市民による市街地公園での「平成の森」づくり	300
	12	大阪府	(特)おおさか緑と樹木の診断協会	巨樹・古木 仮称「おじいさんの木をみつめよう」	500
	13	大阪府	農産園芸福祉活動推進委員会	農産園芸福祉ボランティア育成プログラム	300
	14	大阪府	浜寺公園自然の会	浜寺公園における自然教育事業	40
	15	大阪府	園芸療法研究会西日本	園芸福祉ボランティア入門ハンドブックの作成	400
	16	大阪府	大泉緑地ヒーリングガーデンナークラブ	大泉緑地ヒーリングガーデンナー養成講座	42.4

⑤

* 平成18年度 助成団体 *

	地域	団体名	事業名	助成金額 (千円)	
調査研究開発	1	秋田県	みちのく植物研究会	秋田県男鹿半島植物総合調査	500
	2	大阪府	照葉樹林文化研究会	中尾佐助植物採集資料のデータベース化による活用研究	1,000
	3	東京都	(社)日本造園学会	「海外の日本庭園」の調査成果英訳図書 の刊行	1,000
	4	富山県	(財)花と緑の銀行	アヤマ科植物遺伝子資源保全のための日中共同研究	973
	5	沖縄県	国際マングロープ生態系協会	西表島のマングロープの保全・再生に関する調査	986
	6	茨城県	樹形研究会	樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト	1,000
	7	長野県	ひと・むし・たんぼの会	図鑑「農家と水田生物との共存」の刊行	290
	8	熊本県	熊本博物館植物同好会	熊本城築城 400 年記念 熊本城内植物相調査	1,000
活動・行催事	9	東京都	(社)日本植物園協会	植物多様性保全活動と植物園の役割—市民への啓発と広報—	500
	10	大阪府	(社)フラワーズサエティー	花・緑・造園系雑誌の要約集「花アブストラクト」	500
	11	大阪府	(特)おおさか緑と樹木の診断協会	巨樹・古木「おじいさんの木をみつめよう」	500
	12	愛知県	相生山緑地 オアシスの森くらぶ	みんなでやるまい! “伐って育てる雑木林公園づくり”	500
	13	大阪府	山田池公園・花のくらぶ	大阪府菅山田池公園の花壇管理ボランティア活動	116
	14	高知県	焼畑による山おこしの会	焼畑から始める近自然の森づくり	130
	15	大阪府	久宝寺緑地ヒーリングガーデンナークラブ	久宝寺緑地ヒーリングガーデンナー養成講座	20
	16	東京都	中越震災みどり復興ワークショップ実行委員会	中越震災みどり復興ワークショップ	500

⑥

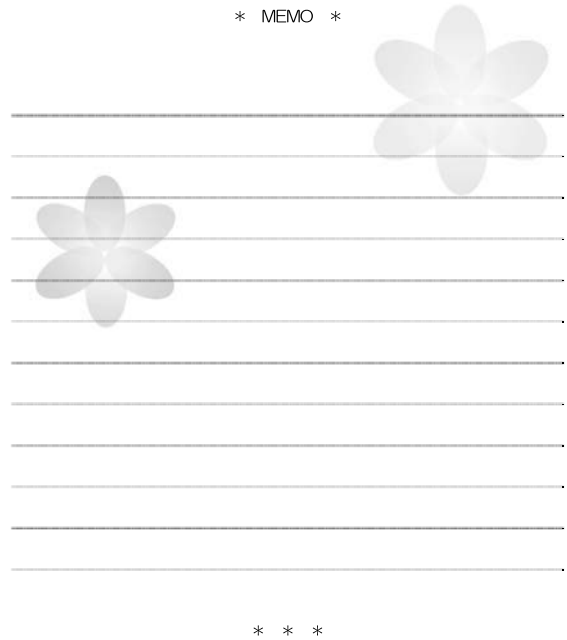
* 平成19年度 助成団体 *

	地域	団体名	事業名	助成金額 (千円)	
調査研究開発	1	福井県	(財)越前町朝日公共施設管理公社	越前町立福井総合植物園植物標本整理事業	
	2	大阪府	(特)国際造園研究センター	都心における街区公園の再整備についての調査研究	
	3	茨城県	樹形研究会	樹木のフェノロジー調査とその手法開発プロジェクト	
	4	京都府	国際シンポジウム「伝統中国の庭園と生活空間」実行委員会	国際シンポジウム「伝統中国の庭園と生活空間」	
	5	富山県	(財)花と緑の銀行	トウツバキ園芸品種の保全に関する日中共同研究	
	6	大阪府	照葉樹林文化研究会	中尾佐助植物採集資料のデータベース化による活用研究	
	7	兵庫県	兵庫県自然保護協会	藤本義昭イネ科植物コレクションのデータベース整備	
	8	東京都	(特)日本国際湿地保全連合	持続的地域づくりと湿地の保全再生に関する国際交流	
活動・行催事	9	青森県	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	白神山地ブナ林の森林構造及び森林動態調査研究	
	10	青森県	(特)白神山地を守る会	白神山地ブナ植樹フェスタ in 赤石川開催事業	
	11	愛媛県	伊予農絶滅危惧海浜植物群保全プロジェクトチーム	塩屋海岸における絶滅危惧海浜植物群落の保全活動	
	12	大阪府	ガーデンシティコープ金剛東すみれ会	“花のまちづくり運動”	
	13	岐阜県	(社)木曾三川水源造成公社	水源林見学会	
	14	宮崎県	高千穂森の会	ほたるの源流に「アジサイの森」をつくらう	

* 過去の助成団体の事業については、ホームページに詳細を掲載しております。是非ご覧下さい *
http://www.expo90.jp/

⑦

* MEMO *



* * *

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会助成事業 成果発表会

日時 * 2007年10月20日(土)

13時半~16時半

場所 * 南御堂 教化センター会館(大阪市中央区久太郎町4-1-11)

⑧